

# iPad

## の 研究

24年前 (Macintosh) からのアップルウォッチャー

高木利弘氏



### 世界中を席卷する「iPad旋風」

iPadは、4月3日に米国で発売されるや、28日後に販売台数が100万台を突破した。そして、5月28日には日本をはじめ、英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、スイス、カナダ、オーストラリアの9カ国で発売され、その3日後に200万台を突破した。

日本で発売開始された当日、東京・銀座のアップルストアの前には、午前8時の発売開始の時点で約1,200人が列をなし、ストアがオープンするや歓声と拍手がわき上がり、ずらりと並んだテレビカメラが中継する中、徹夜で並んでいた先頭の客が、次々と店員とハイタッチをしながら店内に吸い込まれて行く。こうした光景は、日本に限ったものではなく、YouTubeを見ると他の各国も同じようであったことがわかる。不況の最中、一体このお祭り騒ぎはなんだろう？と訝る人も多いであろう。

この「iPad旋風」は、一過性のものなのだろうか？ いや、そんなことはない。これは革命の始まりなのである。

私は発売前日、TBSとフジテレビの取材を受けていたのだが、面白かったのは私がiPad (米国版)を操作しながら説明をしていると、ディレクターやカメラマンの表情がみるみる変わっていくのである。「えっ、すごい」「画面がきれいだ」など、発売日当日、一番乗りでiPadを手にした客がインタビューに答えていたのと同じような反応を示している。

「百聞は一見にしかず」というが、iPadの場合は「百聞は一見、一触にしかず」というべきであろう。実際に見て、触ってみれば、そのすごさはすぐ実感できる。

ではなぜ、私が取材を受けていたかということ、たぶん私が日本で一番、iPadと電子書籍の両方に精通しているという情報をどこかで仕入れたからであろう。iPadだけについていえば、私より詳しい人は何人もいる。しかし、iPadと電子書籍の両方に詳しいというと、そう何人もいるわけではない。

実際、私はこの4月に『iPhoneアプリヒットコンテンツ調査報告書2010』(インプレスR&D刊)を著し、『電子書籍ビジネス調査報告書』(同)に至っては2003年から毎年、著してきて

おり、日本の電子書籍市場の市場規模と実態について調査・分析してきている。

そもそも私とアップルの付き合いは、今から24年前、Macintoshが正式に日本語対応した1986年に、日本で最初のMac専門誌『MACワールド日本版』を創刊した時に始まる。

翌1987年に『MACLIFE』を創刊し、DTP、マルチメディア、インターネットという新しいITトレンドをずうっとウォッチしてきた。そうした私の目からすれば、今起きていることは、「iPad革命」というべき歴史的な大事件なのである。

では、この「iPad革命」とは、どのような革命なのであろうか？そして、どう世の中を変えていくのであろうか？

### 「iPad革命」はコンピュータ史に名を残す大革命

その第一は、コンピュータの歴史に名を残す大革命であるということである。1984年にMacが登場した時に、CMで盛んに使われた

## iPadは革命だ

### Windows全盛期の終わりを告げる

普及のスピードと、世界への広がりて群を抜くiPad。そのメディアとしての革新性は何か。病と戦うジョブズ氏が1時間以上のプレゼンを行ったiPad。そこに込めたメディアビジョンがどんなビジネスを誕生させるのか。そのテーマにフォーカスした不定期シリーズ「iPadの研究」。

24年前に登場したMacintoshからアップルをウォッチし続ける高木利弘氏にトップを飾ってもらった。(編集部)

文●高木利弘

Takagi Yoshihiro

株式会社クリエイション 代表取締役  
インプレスR&Dインターネットメディア総合研究所 客員研究員